

世界を見つめる目、成蹊から。
国際教育センター始動
～創立100周年記念事業第1弾～

[CONTENTS]

- 2 創立100周年記念事業について 専務理事あいさつ
- 3 国際教育センター設立について センター長あいさつ
- 4 新年度に向けて 学長・校長あいさつ
- 7 桃李の人々
- 10 2004年度予算の概要
- 11 大学の近況
- 13 中学・高等学校の近況
- 14 小学校の近況
- 15 保健管理センターから
- 16 創立100周年記念事業募金局からのご報告
- 18 2004年度 入学試験状況
- 19 役職者／連絡先一覧
- 20 学校行事予定(4月～6月)／学園史料紹介

大学西1号館完成 法科大学院4月開校



創立一〇〇周年記念事業について

(御報告とお願い)



成蹊学園将来構想検討委員会委員長
成蹊学園 専務理事

加藤 節

皆様にはいつも成蹊学園のためにさまざまな御協力を賜り、心から御礼を申し上げます。

さて、私どもは、先般、「新成蹊創造プラン」の名の下に学園創立一〇〇周年記念事業に着手いたしました。その進捗状況について皆様に御報告し、併せて、学園に対する一層の御支援をお願いしたいと存じます。

今回の記念事業は、長い伝統の上に築かれてきた成蹊学園の声価をより確固としたものにして、学園の社会的競争力を飛躍的に強化することを大きな目的にしております。そうした視点から、私どもは、まず、本年四月に、学園を挙げて国際理解能力とコミュニケーション能力とを育成し、多面的な国際交流を推進するための学園縦断的な機関として「国際教育センター」を開設いたしました。全国でも例のない同センターの設立によって、戦時下でも英語教育を絶やさず、早くから「国際学級」を開設する等、国際化に積極的に取り組んできた成蹊学園の評価を更に高めることができると考えております。

また、小学校では、全国の私学に先んじ

て、二〇〇五年度から段階的に三〇人学級制に移行することにいたしました。学園創立者中村春二先生以来の少数教育の理念に忠実に三〇人学級制を導入することによって、児童一人ひとりがもっている豊かな個性を引き出す行き届いた教育が今まで以上に可能になるものと期待しております。

中学・高等学校においても、現在、中高一貫化の強化を柱とする将来構想の策定作業が精力的に進められております。そこでもまた、確かな学力と幅広い教養との習得を可能とする一貫した教育体制のなかで、生徒一人ひとりが自分の個性や資質を自ら発見する機会を作り出すことが目指されています。

「個性をもった自立的な人間の創造」を目指すこうした教育面での改革に併せて、小学校、中学・高等学校とともに、新しい教育体制に見合う校舎の新築を予定しております。その場合にも、成蹊学園の豊かな自然環境と落ち着いた雰囲気とにマッチした美しい建物を建てようと考えております。

更に、大学では、情報化時代にふさわしいインテリジェント機能を備えた図書館を新築することを決定し、現在、成蹊出身で国際的に活躍されている建築家坂茂氏の御協力をいただきながら、二〇〇六年度の開設を目指して準備が進められております。新しい時代にふさわしい新図書館が、卒業生や学園関係者だけではなく、地域に対しても開かれた「知の拠点」となることを期待したいと思います。

大学にとって、図書館の新築と並ぶもう一つの大きな施策は法科大学院の開設で

す。法曹養成の従来の実績が必ずしも十分ではないこと、財政的負担が大きいことを理由に法科大学院の開設を危ぶむ声もありましたが、競争倍率日本一という高い評価を得て、本年四月に無事開設にこぎつけることができました。学園としましても、法科大学院の成功が成蹊大学全体の社会的評価の向上につながることに鑑みて、今後とも法科大学院の強化に努めたいと思っております。

このように、新たな成蹊学園を創造しようとする意図の下に始められた学園創立一〇〇周年記念事業は順調に進捗しております。しかし、その事業をより確実な軌道に乗せるためには、財政基盤の更なる強化が不可欠であります。その点に配慮して、学園は、この数年、人件費を中心とする支出の縮減や基金の積み上げ等、記念事業を着実に実施するための財政的な措置を積極的に講じてまいりました。

しかし、少子化や補助金の削減を背景に学園の帰属収入が減傾向に入っている現在、学園独自の努力に限界があることも事実であります。そうした判断に立って、私どもは、創立一〇〇周年に向けた募金事業を始めさせていただきます。現在までに、三菱金曜会や学園に関連する企業からの御協力をいただいておりますが、目標額を達成することは困難な状況がなお続いております。そこで、厳しい経済状況の折に誠に心苦しい限りではありますが、学園の財政基盤の強化のために是非とも皆様に募金事業に更なる御協力をいただきたく、伏してお願い申し上げます。

国際教育センターのめざすもの



成蹊学園国際教育センター所長
経済学部教授
武藤 恭彦

この四月から、新たに「成蹊学園国際教育センター」が開設され、本学園全体の教育の国際化をいっそう推進していく役割を担うことになりました。以下で、国際教育センターが目指すものをご説明し、ご理解とご支援をお願いしたいと存じます。

二十一世紀を迎えるに際し、成蹊学園では学園二十一世紀構想検討委員会を設けて、これからの学園の目指すべき方向について検討して参りました。この委員会の答申は去る二〇〇〇年に提出されており、本学が、そこで強調されたことの一つに、本学園の教育のいっそうの国際化の必要性があ

ります。これに基づいて設置された成蹊教育検討委員会において、この答申の具体化をはかるため成蹊学園に「国際教育センター」を創設することが提案され、二〇〇二年六月以来、国際教育センター設立準備室を理事長のもとに設置して、準備作業を続けてきたところです。社会の進展にともなう教育内容の充実が教育活動に携わる者の重要な使命ですが、本センター創設の構想の重要なポイントは、国際化に即した教育の充実を本学園各学校共通の目標としてかけ、それを学園縦断的な組織の設立によって具体化していこうとするところにあります。

教育体系における国際性の強調は、最近では小学校段階まで及んでおります。多くの小学校が次第に充実した英語教育を導入する趨勢にあるのは、その有力な例と言えます。また、外国体験を持つ児童・生徒・学生の比率が非常に高まっており、高等学校を卒業後、ただちに外国の大学に入学するような例も次第に増加しております。大学においても、将来のキャリアとして国際的な業務に携わろうとする志望が広がっております。国際的な業務と国内的な業務

との距離は急速に縮小しており、どのような仕事に携わるのであれ、国際社会に対する深い理解がますます重要になっていきます。これらに対応するための教育体系の整備は、対象者が若い時期から一貫して進めていく必要性が非常に高くなっております。

このような観点から見ると、小学校から大学までの教育機関が同じキャンパスの中にすべて揃っている本学園は、真の意味での国際理解教育を一貫して実現できる数少ない教育機関であることに改めて注目すべきだと考えております。国際教育センターは、この有利さを極力生かし、学園全体としての対外発信力を強めつつ、国際化の進展するわが国の教育機関としての社会的責任を果たそうとするものに他なりません。

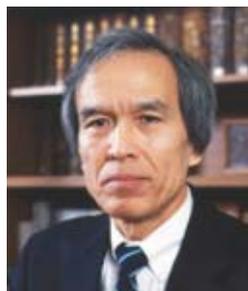
成蹊学園は、これまで、教育内容の国際化に努めて参りました。大学経済学部の国際社会コースや各種の留学プログラム、中学・高等学校が長年行ってきたオーストラリア・カウラ市との交流、小学校全学年での英語教育実施などがその例であり、今年からは文学部にも国際社会コースが設置されるほか、他の学部でも国際性の重視を意図したカリキュラム改革が進んでいます。

国際教育センターは、国際化に適合した教育体系の整備に力を注ぐ方針で運営して参りますが、重要なものをあげてみますと、(一)大学での英語学習における動機付けの重視とコミュニケーション能力の体系的な開

発(多読用教材の導入・集中的なリスニング等の訓練等)、(二)国際社会の歴史・制度・現状についての理解(大学での「国際教養科目」の導入等)、(三)各種の国際交流の促進による、児童・生徒・学生の意識改革、などがあります。本センターは、これらの諸課題をテーマ別に分離して扱うのではなく総合的に一括して活動対象といたします。このため、本センターの所員は、本学園に属する全ての学校の教員を所属校や所属学部にとだわらずに編成し、国際理解教育を学園全体として統一的に企画立案することといたします。また、成蹊大学の授業(前述の「国際教養科目」)を成蹊高等学校に開放するなど、学園内の各学校の連携を順次強化して参ります。さらに、大学レベルについてはかなり拡大してきた国際交流を、高等学校・中学校・小学校のレベルにも積極的に取り込んでいかねばなりません。

しかし、国際理解を深めるための教育体系の整備は、本センターにそれを全面的に任せれば済むというものではありません。このためには全教職員の努力が大事であることは言うまでもありませんが、それに加えて、在校生のご父母や卒業生の皆様のご理解とご支援をいただく必要があります。本構想の立案から具体化のプロセスで、これらの方々からは極めて多くのご提案や激励をいただいております。四月からのセンターの発足の機会に、これまでのご支援に心より御礼を申し上げますとともに、今後ともご理解を賜りますようお願い申し上げます。

学長に就任して



学長
栗田 恵輔

このたび、学長に就任いたしました。微力ながら最善をつくす所存です。ご指導とご鞭撻をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

これまでの六年間は柳井前学長のリーダーシップのもとに、改革を進めてまいりました。おかげさまで、成蹊大学は順調に発展を続けております。最近、受験生が減少していないままな大学として、また、就職状況が非常によい大学としてマスコミなどに取りあげられることも多く、高い評価が定着しつつあります。

しかし、大学をとりまく環境はきわめて厳しく、その変化も大きいため、予断を許さない状況であることに変わりはありません。少子化と不況の影響が著しいわけですが、特に私学においては生き残りをかけた競争がますます激しくなっています。全国の私立四年制大学のうち、すでに約三分の一は定員割れをおこなっている指摘されています。しかも、二〇〇九年には全入時代になることはほぼ確実です。また、ひとつの学部が定員割れになると、他の学部へもすぐに波及するといわれておりますので、充分な対策をたてなければなりません。いまこそ成蹊学園の建学の理念である「個性尊重の人格教

育」を何よりも大切に、大学として存在意義の確立と個性化をはからなければならぬと思っております。

このように学校運営がむずかしくなるなかで、成蹊学園は二〇一二年に創立一〇〇周年の大きな節目を迎えます。そのため、学園として「新・成蹊創造プラン」を策定し、実施に移しつつあります。国際教育センターの設立はその中で柱となるのですが、大学にとっては、情報図書館の建設、法科大学院の開設などが重要な施策としてあげられます。

国際教育センターは単なる語学センターではなく、国際教養科目も担当するための組織です。最近、国際化と情報化が加速し、私たちは世界の諸地域と協調していくことが求められていると同時に、国際的な激しい競争にさらされています。そのような中にあつては、健全な常識を育てることがなにより大切です。専門知識があつても深い教養に支えられた常識がなければ的確で総合的な判断はできませんし、世界の人びとの友好関係も結べないからです。

成蹊大学の学生は日本人として、人間としての知性と感性とを豊かにあわせもつことが必要であり、それが国際的にも通用する高い人格を形成することにつながると思います。グローバル化は今後さらにすすむわけですから、幅広く豊かな教養とともに、国際共通語としての英語の力も当然のこととして求められます。本学の恵まれた環境を活用することにより、専門とする分野のことがらに詳しいだけでなく、語学に強く、国際感覚をもった教養人を育成できると信じています。国際教育センターはそのために大きな役割を果たしてくれそうです。

図書館は大学における教育、研究の拠点であり、その重要性は明らかです。図書館の充実

をはかるために、これまでは増築によって対処してきましたが、これでは限界があります。蔵書数の増大ばかりでなく、急速にすすむ情報化に対応するためには、高い機能をもった図書館がいまや不可欠です。現在、詳細をつめていく段階ですが、建設する場所としては大学一号館の一角を予定しています。一号館は本館とならなでながい歴史をもち、かつては理化館として親しまれてきたレンガづくりの建物です。成蹊にとつて大切なこの建物を解体するのは何ともつらいものですが、老朽化しており、大学の飛躍のためには建てかえもやむを得ないとの結論にいたりました。ご理解をいただきたいと思えます。

大学の組織も大きく変わりつつあります。法科大学院（ロースクール）の設置はその一つですが、全く新しいシステムであるために将来像はまだ不明の部分もあります。しかし、法科大学院をもつことは成蹊大学を発展させるための重要なステップであり、ぜひとも成功させなければなりません。そのために多くの検討を重ね、昼夜開講制などを含め、特色ある大学院を組織することができました。文部科学省による審査においても、大きな問題はなく認可され、本年度から開設することができました。これにもない、法科大学院が主として使用する教室・演習棟が樺並木の西側に建設され、さらに充実したキャンパスになりました。

経済学部はこれまで経済学科と経営学科で構成されてきましたが、経済経営学科として一学科にまとめ、四月から新しくスタートしました。経済学・経営学を学ぶ学生にとつて学科の枠組みは重要ではなく、むしろコース制のほうが広い視野を育成するには適していると考えたためです。これは、教える側ではなく、徹底的

に学ぶ側の視点から教育のシステムを再検討した結果であり、新しい方向性を示す改革として評価されてよいと思います。「自立した職業人の育成」を理念とし、二十一世紀の人材を育成することをめざしています。

工学部は理工学部として再出発します。これまでは五学科制で、伝統的な縦割りの組織でやってきました。しかし、科学技術の進展がますます速くなっている現在では、知識を多くもつことよりも、深く考える力、応用する能力をもつことが求められています。つまり、科学技術が高度になり、学際化がすすむほど、より基礎的な学力の重要性が増すこととなります。このような社会的な要請にこたえるために、工学部の再編成を議論してきましたが、基礎を重視した理工学部とすることは当然の帰結でした。新学部では横断的な教育・研究ができるように「物質生命理工学科」、「情報科学科」、「エレクトロメカニクス学科」の三学科体制とし、来年度から出発いたします。

大学はいま大きな変革期のなかにあり、すべてが流動的です。真に競争力をもつ大学としてさらに成長させることは容易ではありませんが、可能であると思っております。多くの方のお力添えをお願い申し上げます。

学長略歴

栗田 恵輔（くりた けいすけ）

- 1961年 成蹊高等学校卒業
- 1970年 東京大学大学院
工学系研究科博士課程修了
- 1976年 成蹊大学工学部助手
- 1986年 成蹊大学工学部教授
- 1994年 成蹊大学工学部長
大学院工学研究科長
- 2002年 国際交流センター所長
- 2004年 成蹊大学学長
- 専門分野 高分子化学

伝統とともに飛躍しよう



中学・高等学校長

谷 正紀

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご家族、ご親戚の皆さんも新しい世界への門出をお喜びになったことと思います。

成蹊学園の春は桜の名所ですが、もう一つ櫻並木の芽吹きがあります。花と緑豊かな成蹊の環境とともに、成蹊中学校・高等学校の教職員一同、皆さんを心より歓迎いたします。

少子化時代で、中学校、高等学校の就学人口が減る中、成蹊中学校、高等学校の志願者は昨年に比べ増大しました。厳しい選抜にもかかわらず、難関を突破された皆さんの今後の学校生活での活躍を大いに期待しております。

さて、これからの時代を見ますと、国際化、グローバル化、情報化、スピード化などが挙げられ、変革、革新の時代と言われています。そういった時代で、期待される社会人像を描いてみますと、やる気をもって自己開拓できる人間、グローバルに活躍できる全人格像、そしてチームワークをリードできる人間といった人間像が強く求められていると感じています。実はこのような人間の育成は、九十年以上も前の成蹊学

園の建学理念「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」に通じるところがあります。勤労の実践は今では体験を通じた学習と言えましょう。時代とともに社会を取り巻く環境は大きく変わってきていますが、若者の教育は中村春二先生の創立時の教育理念が今また重要であることを示していると言えます。

変革、革新は教育界にもおよび、学校改革が叫ばれ、急速に多様な改革、試みが公立、私立学校でなされつつあります。成蹊学園でも創立一〇〇周年に向け、新・成蹊創造プランとして「個性を持った自立的な人間の創造」が示されました。これを汲み、中学校、高等学校の教育ビジョンとして、誇りを持って社会の発展に貢献できる人間を育成するため、「グローバルに認知される教養と個性の育成」、「協調性のある自立精神と自律的行動力の育成」、「知的好奇心と科学的探究心の育成」を掲げました。具体的には中学・高等学校の将来構想として一貫教育、全人教育、個性伸長教育の三本柱を一層充実させていきます。一貫教育については生徒の皆さんの発育、成長に応じた導入、充実、進路教育を強化します。また、中学・高等学校内のみならず成蹊大学との教育ならびに進学の連携も充実していきます。さらに国際化、グローバル化の時代に対応して、成蹊学園の長い国際教育の伝統を発展させ、カリキュラムの充実、成蹊小学校の英語教育との連携、国際交流・留学の充実、二〇〇四年四月から発足の成蹊学園国際教育センターとの連携などを推進していきます。施設についても一貫教育

の充実、情報（IT）などの充実を図るため再開発を計画しております。これらは将来構想準備室で具体化を進めますが、早くできるテーマは二〇〇三年度から逐次実行に移しております。

さて、子供から大人への成長時期である中学校、高等学校時代を個人の才能面から見てみますと、中学校では自分の才能や資質、たとえば得意なこと、好きなことを一人ひとりが「自覚」する時だと思えます。そして高校では自覚した才能を「伸ばす」時です。さらに大学へ進学した場合には、大学は個人の才能に「磨き」をかける場であり、社会に出たら、個人は磨いた才能で社会に「貢献」し、また自らも才能を「発展」させる時と言えるでしょう。こう書きながらも、世の中の若者を見ても若干心もとない感もなくはありません。たとえば高校に入った全員が自らの才能をすでに自覚しているかと言うことです。いま社会で、中学生、高校生や大学生の学力の問題が話題になり、教育について多くの論議がありますが、これは個人の才能の自覚さには自らの将来像への自覚と無縁ではないように思えます。これに対し、成蹊中学校、高等学校では、幅広い学習、多様な行事、また活発な課外活動により生徒が自らの才能を自覚し、伸ばす環境づくりに教職員全員が力を入れてきました。

このたび入学された中学生、高校生の皆さんが成蹊の教育を理解し、自らの才能を自覚し、伸ばすために充実した学校生活を送られ、伝統とともに飛躍されんことを期待します。

原点への回帰、 そして新たな飛躍へ



小学校長
岡崎忠彦

として生徒の心の門を開かせなければならぬ。…三十名以上になったら、一学級全体の心の門を開かずという事は到底一人にはできないのである。北側の十二人を注意して開かせると東側の二、三名が又閉じるというわけで一目でじつと睨みえぬ為、に学級全体の精神を統一させることはできないのである。」(『学級定員半減論』大正四年六月『新教育』論説より)

開設時の中村春二先生のお考えです。(本校は大正四年に開校) そのお考えにそつて、中村先生をはじめ、歴代の多くの先生の手で「成蹊小学校の教育」の礎は踏み固められてきたのです。しかし、理念だけでは経営は成り立っていかなかったのです。戦後学級の定員は大幅に増え、戦後六十年たった今も一学級は三十八名となっています。

「…ところで今定員を三十名に減じたと仮定してどんな利益があるかと考えると、個性の観察の余裕も出来随って適当な指導をも興え得、級全体が十分に味われるのである。…もし一人でも(心が)開かない児がいたら、教授はその児に対して何等の影響を与えないのである。それゆえ教育を司る教師たるものは、教授の前に当然の順序

そこで私たちは中村先生が小学校を創立したときの原点に回帰しようと今努力しています。先生の当時の思いを再確認し、また学園の「将来構想の考え方」を踏まひにして、新たな近未来への学校づくりを始めます。迎える二〇〇五年の「成蹊小学校創立九十周年」の年を、大きな飛躍の一步を踏み出すときと考え、数々の検討を加えてきています。一学年一―二名(一学級二十八名の四学級)の少人数教育がこの年に開眼しようとしています。(伝統的な婦国子女の教育は継承、四年生から十六名募集:その教育内容や方法は検討中)現在の一学級三十八名と比べると夢のような話です。しかしこの夢のような考えを八十九年前の中村先生はしっかりと心に抱き、実践

なさっていたのです。

後に続く私たち、先生の考えておられた子どもを観をしっかりと受け継ぎ、子どもたちを見つめ、そのひとつひとつの動きや表情から心を読み取り、子どもの立場にたつとともに歩んでいく、そんな「人づくりの教育」を構築していきたいと思えます。学級の子どもが少なくなればより目が行き届き「良い教育」ができる、そんな単純な考え方は、子どもたちの自由な行動や自由な発想までも奪ってしまう恐れがあります。

教師が、子どもたちのまわりのすべての大人が、発想を変え、従来の指導観や授業観から脱皮し、よりひとりひとりを大事に育てることを考える必要があるのです。ひとりひとりの子ども「違い」や「差」を認め、それを生かしていくような教育方法が考え出されなければなりません。子どもたちの心に達成感の喜びから生まれる「自信」と「やる気」、そんな思いが喚起できるような場面を生み出し、自分の持てる力が発見できるような場面を生み出す、そんな手法がより私たち大人に求められてくるのです。

二〇〇五年、この年には小学校の施設の再開発はまだ出来上がっていません。仮の教育環境の中でも、私たちの夢の追求のため、大きく一步を踏み出したと思っています。心の転換と夢へのかぎりない思いを子どもたちと様々な場面で共有しながら…着実に進むであろう「居心地の良い小学校」の居場所づくりを見つめながら…。私たちは歩みつつけます。

新任学部長略歴

【工学部長】上原 信吾 (うえはら しんご)

- 1967年 東京大学工学部卒業
- 1969年 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
- 1969年 日本電信電話公社
(現日本電信電話株式会社)入社
- 1991年 成蹊大学工学部教授
- 2004年 成蹊大学工学部長・大学院工学研究科長
専門分野 光電子工学

【法学部長】亀嶋 庸一 (かめじま よういち)

- 1972年 成蹊大学法学部政治学科卒業
- 1979年 成蹊大学大学院
法学政治学研究科政治学専攻博士課程修了
- 1981年 成蹊大学法学部講師
- 1986年 成蹊大学法学部助教授
- 1989年 成蹊大学法学部教授
- 2004年 成蹊大学法学部長・大学院法学政治学研究科長
専門分野 現代政治理論

桃李の人々

第1回

成蹊学園では、各界の第一線で活躍する多士済々の卒業生を輩出しています。本連載では、そうした著名OBの足跡をたどり成蹊学園での教育がこれまでの活動にどのような影響を及ぼしたのかに迫ります。第1回は、三菱商事取締役相談役の榎原稔氏です。



榎原 稔

Minoru Makihara

三菱商事取締役相談役

戦時下でも続けられた
英語の授業が
私に海外への視野を
広げてくれました

早い段階から帰国子女を受け入れていた成蹊学園

榎原相談役は小学校から成蹊学園で学ばれています。ご両親が成蹊学園を選ばれた理由は何だったのでしょうか。

榎原 一つには、父(覚氏。元三菱商事水産部長)が三菱商事に勤務しており、関係の深い成蹊学園の教育理念に共感を抱いていたことがあげられます。また、私は父の仕事の関係で、幼少時代をロンドンで過ごしました。小学校入学の時に帰国しましたが、当時から成蹊学園では、独立した国際学級を設けて、私のような帰国子女を積極的に受け入れていました。両親は、そうした国際性を持つ学園ならば、馴染みやすいだろうと考えたのだと思います。――実際に入学されてみての印象はいかがでしたか。

普通学級に編入したのですが、まったく違和感なく溶け込むことができました。これは、先生にも生徒にも、多様な国際的なバックグラウンドを持つ生徒が在籍していることが自然なことであるという意識が醸成されていたからだと思います。私は、この国際的に開かれた学園であるという点が、成蹊学園の大きな魅力だと感じていますし、今後も大切にしてほしいと願っています。

徹底した人格陶冶教育 同級生も俊英ぞろい

榎原 もう一つ、成蹊学園の教育の魅力は、人格の陶冶をめざすという理念が徹底していたことです。単なる受験のための教育ではなく、本物の人間教育が行われていました。ただ、それが高じて、よく成蹊学園の卒業生はとてものんびりしていて、競争意識が欠如している指摘されることもありま

す。確かに、そういう面はあるかもしれませんが、私にはむしろその方が社会にとつて有為な人材なのではないかと考えています。豊かな人生とは、偏差値の高い大学に入学することでも、有名会社に入社することでもありません。長い目で見て、社会に貢献できたか、あるいは文化的な活動に寄与できたか、それが重要なのです。成蹊学園は、私にそうした人生にとつて本当に大切なことは何か、を教えてくださいました。

――具体的に、教育内容や、先生の言葉などで印象に残っているところはありますか。

榎原 小学校の理科の授業で「電車に乗ったら、本などを読んだりせずに、窓の外を見るようにしなさい。そうすれば必ず学ぶことがあるはずだ」と教えられたことを覚えています。この先生が伝えたかったことは、身近な生活の中から、自分なりに問題を発見する姿勢を身につけてほしいということだ

ったのでしよう。それを小学生向けに分かりやすく表現してくださったわけで、とても素晴らしいアドバイスだったと思います。

また、園芸の授業も貴重な体験でした。当時はそれほど意義を感じていなかったわけはありませんが、今振り返ってみると、人として成長していく上で、大切なプロセスだったと感じています。加えて、こうした教育のもと、私にとっては、成蹊学園は「生涯の友」を作る場でもありました。

――同級生にはどのような方々がいらっしゃったのですか。

榎原 成蹊学園理事長で東京三菱銀行相談役の岸暁君、元三菱銀行役員石坂恭彦君、岩崎寛彌君をはじめ、危機管理の第一人者で、初代の内閣安全保障室長を務めた佐々淳行君などが同級生です。そのほか、国際学級には元三菱レーヨン常務理事で、ビジネスコンサルタントとして活躍している岩崎洋

榎原 稔(まきはら・みのる)

昭和5年1月12日、東京生まれ。成蹊高校3年在学中に、アメリカ・セントポールズ校に留学。昭和29年ハーバード大学政治学部卒業。昭和31年三菱商事入社。昭和63年常務、平成2年専務、平成4年社長、平成10年会長を経て、平成16年4月より取締役相談役。日本経団連副会長、アメリカIBM社外取締役、タイムラークライスラー社アドバイザー・カウンシルメンバーなども務める。



一郎君も在籍していました。まさに錚々たる俊英ぞろいです。これらの友人たちとは、現在でも密に交流しています。数多くの優秀な友人に恵まれたことは幸せなことでした。

第2次大戦中も続けられた ハイレベルな英語教育

成蹊高校3年生の時に、アメリカ・ニューハンプシャー州コンコードにある全寮制私立学校「セントポールズ校」に留学されていますが、先ほどおっしゃられた成蹊学園の国際性の影響もあつたのでしょうか。

榎原 私は中学3年生の時に終戦を迎えました。その頃、生徒の一部は、元箱根の芦ノ湖畔にある旧岩崎邸に疎開していました。そこでは、谷岡喜久蔵先生(現・成蹊学園名誉理事)のもと、日本古神道の思想に基づく教育を標榜しており、授業のほかに「修練」と呼ばれる新取り、種まき、耕作なども行われていました。ある意味では国粋主義教育と見られる面もあつたかもしれませんが。けれども、実はその一方で、英語教育がずっと続けられていました。それも、現在の教育レベルと遜色ない高度なものでした。戦時下で英語が敵国語として忌避されていた時代に、これは画期的なことです。成蹊学園の国際性を如実に示すエピソードといつていいでしょう。教育においては、自由闊達な風土が堅持されていたわけで、誇りとすべきところだと思います。この教育に刺激を受けて、自ずと英語はもちろん、海外に対する関心も高まっています。

英語弁論大会で2回連続 マッカーサー杯を獲得

——当時、英語弁論大会でも活躍されたとお聞きしていますが…。

榎原 戦後、毎日新聞社の主催で行われた「マッカーサー杯」という英語弁論大会で、2回連続優勝しました。清水護先生をはじめとして、学園をあげて指導・支援していただいた成果です。

この英語弁論大会で、自信を得て、アメリカの大学、それもできればハーバード大学で学びたいという意欲がわいてきました。とはいえ、いきなりハーバード大学に入学するのは困難です。いったんアメリカの高校に入学し、そこで相應の成績を修めれば道が開けることを知り、セントポールズ校に入学することになりました。



マッカーサー杯

——それにしても、当時、アメリカの学校で学ぶのは、考え方の違いなどもあつて、ご苦労されたところが多かつたのではないですか。

榎原 アメリカで学ぶ上でも、成蹊学園で身につけた素養が役に立ちました。アメリカでは、自分の思っていることを、気負わずに明確に主張することが求められます。周りに気をつかいすぎる必要はないし、また、相手に指摘されたことをその通りにやる必要もありません。ところが、多くの日本人はそれがなかなかできない。遠慮して自分の意見を言わないし、相手にあわせることがむしろ美德だとすら思っているところがあります。それでは国際社会では通用しません。成蹊学園の教育の凄味は、そうした国際社会では当たり前な常識的な判断が、自然にできるような教育内容になっていたことなのです。知識よりも、ものの考え方が大事

であり、自分の考えたことを深め、表現できるようにならなければいけない。そう繰り返したとき込まれたことで、アメリカスタイルの授業にも戸惑うことはありませんでした。

——その後、ハーバード大学に進まれたわけですね。

榎原 セントポールズ校で1年間学んでからハーバード大学政治学部に進み、卒業後、三菱商事に入社しました。中学・高校時代に抱いた夢とおりの道が歩めたことも、成蹊学園で基本的なものの考え方が身につけていたからだと感じています。

ビジネスに最も適した言語は英語である

——現在、成蹊学園では、2012年に迎える創立100周年に向けて、多彩な改革が進行しています。その柱の一つとして、2004年4月に国際教育センターが創設され、学園の国際理解教育の拠点としての活動をめざしています。このセンターに対する「意見、期待をお聞かせください。」

榎原 これまでの日本は、欧米のキックアップに終始してきました。それが戦後の高度成長に寄与したことも事実です。けれども、限定された目標に向けた体制を構築してきたために、様々なしこりも生じていますし、何よ



セントポールズ校

りも今後は世界のフロントランナーとして、本当の意味で国際的に門戸を開放して、リーダーシップを発揮しなければならぬ時代になっています。そのためには、国際的な感覚を持った人材の育成が急務なのです。その意味で、国際教育センターの創設は意義深いことです。国際理解教育に力を注ぐことは、国際感覚にあふれた学園風土を持ち、国際教育に長い伝統のある成蹊学園に課せられた社会的責務でもあると思います。

——2002年度から、小学校の全学年で英語の授業を導入するなど、とくに英語教育を重視する方針ですが

榎原 賛成です。とくにビジネスの世界では、英語が完全な慣用語になっています。この背景には、世界のマーケットがアングロサクソンに支配されているからという側面もあります。けれども、それ以上に、ビジネスに最も適している言語は英語であるというのが、私の持論です。主語、述語の関係がきわめて明快な言語だからです。逆に、ビジネスに向かない言語の典型が日本語です(笑)。主語を明確にしない日本語は、文学言語としては余韻があり優れているかもしれませんが、ビジネスではトラブルのもとになります。日本人同士なら阿吽の呼吸で理解

してもらえたとしても、国際的な場では通用しない。ですから、これから世界に伍して活躍していかねばならない日本人としては、英語の修得が絶対条件になります。

——今後、どのような英語教育をめざすべきか、「意見をお聞かせください。」

榎原 近年、どの学園でも英語教育を重視する傾向にあります。一種のブームになっている観もあります。けれども、成蹊学園の国際教育は、決して付け焼き刃的なものではありません。長年の伝統と蓄積があるはずで、それを生かした個性的な国際教育、英語教育をめざしてほしいと思います。たとえば、先のセントポールズ校をはじめとして、数多くの海外の学校と交流提携を結んでいます。その関係をさらに強化することが肝心だと考えます。国際教育には、何よりも人的交流の活発化がポイントになるのではないのでしょうか。

——国際教育センターでは、小学校から大学まで、各段階に応じた国際理解教育を体系的に進めていくことをめざすという構想を持っています。

榎原 同じキャンパスの中に、小学校から大学まで設置されていることは、成蹊学園のメリットの一つです。学園全体として、一貫した国際理解教育を展開するには絶好の環境にあるわけですので、その強みを最大限に発揮してほしいですね。

三菱グループをはじめ社会との連携強化も望みたい

——最後に、学生・生徒に向けてのアドバイスをお願いします。

榎原 学びとは、大学に入学した段階で、あるいは会社に入社したらそれで終わりというものではありません。まずは、若者たちに、常に将来にわたって自分の価値を高めていくのだという意識を持ってほしいと思います。学校はそのための一つのステップなのです。

——よく分かりますが、なかなか難しいことでもあります。

榎原 そうですね。そこで私が提案したいのは、もっと学園と社会との連携を強めて、社会で今、何が求められているのかを、意識させながら学べる雰囲気形成してほしいということですね。幸い、成蹊学園には、歴史的に三菱グループとの深い関係があります。できれば、双方で今後の教育のあり方について、議論する場を設けていただきたいと思っています。それによって、たまたま、インターンシップや、共同研究の活発化もはかれる気がします。あるいは社会の第一線で活躍している人に、学園に来てもらって、学生・生徒に生きた話をしてもらうことも有意義でしょう。それが、学び続けるモチベーションの強化につながるはずです。私も、成蹊学園OBとして、また三菱グループの一員として、そうしたお手伝いをしていきたいと考えています。

(インタビュー/広報課 伊藤昌弘)

2004年度予算の概要

2004年度予算は、理事会、評議員会の議を経て、第1表及び第2表のとおり決定いたしました。

現在、学園を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあります。収入の面では、今年度まで続く大学の臨時入学定員の減少及び納付金の据え置きなどの事情により漸減しております。また、支出の面では、創立100周年記念事業の推進を中心に教育研究の充実、施設設備の更新・改修等により増加しております。このような状況下で収支の均衡を図るためには、経費を縮減して限りある資金を有効に活用することが従前にも増して求められています。

第1表の消費収支予算書は、消費収入と消費支出の均衡の状態とその内容を明らかにすることにより、学園の経営状況を把握するものであります。

消費収入の部では、納付金が前年度より7億68百万円減少の見込みですが、これは新入生の納付金を入学定員数で積算していることと前年度予算額を実入学者数により補正したことによるためです。また、手数料、補助金等は前年度と比べ若干増加する見込みです。この納付金、手数料、補助金などの実質的収入である帰属収入の合計は138億49百万円となります。

基本金組入額は学校運営のために基本的に必要とする建物、機器備品、図書等の取得額（第1号）、将来の校舎取得等を目的とした施設設備整備資金の積上げ額（第2号）、成蹊学園創立100周年記念事業募金から積上げる奨学基金（第3号）で、その合計額は25億72百万円となります。帰属収入から、この基本金組入額を控除した額が消費に充てられる消費収入で、その額は112億77百万円となります。一方、消費支出の部では、人件費、教育研究・管理経費などの消費支出合計は135億43百万円となります。

この結果、消費収入合計と消費支出合計の差額22億66百万円が消費支出超過額となる見込みです。これは、校舎建設に伴う基本金組入額が多額となり消費収入が減額になったことと法務研究科や国際教育センターを開設することによる人件費が増加し、消費支出が増額したことによります。

第2表の資金収支予算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されており、予算総額は245億54百万円であります。収入の

部のその他の収入は、退職金の支払資金及び施設の建設や改修の支払資金等に充当するため、過年度に積上げていた資金の取崩し額です。一方、支出の部の資産運用支出では、計画に基づく施設設備整備資金引当特定資産等への資金の積上げを行います。

2004年度は、主に次のような事業を行います。

1. 2005年度に工学部改編を行い、理工学部を設置するための必要経費を計上いたします。
2. 工学研究科の5専攻で横断的に研究を行うハイテクリサーチセンターを設置いたします。「人にやさしい次世代システム開発」に向けて研究を開始します（総額約2億44百万円）。
3. 新たに法科大学院にも給付奨学金を設け、奨学金の拡充を行う他、法科大学院運営経費を計上いたします。
4. 情報教育の一層の充実を図るため昨年に引き続き、その基盤と環境を整備いたします（総額約2億73百万円）。
5. 小学校から大学までの国際理解教育を縦断的に行う国際教育センターを設置します。各学校間の連携を計り、語学教育のみに偏らない国際理解教育や国際交流に関する業務を行います（総額約47百万円）。
6. 2005年度から実施される小学校30人学級制への移行準備のための必要経費を計上いたします。
7. 施設関係では学園創立100周年記念建築計画の第1段階として2006年度の竣工を目指して大学情報図書館（仮称）の建築を開始します（総額約45億円）。また、中高特別教室棟大教室の舞台照明改修など、中学高等学校・小学校各施設の必要な改修を行う予定にしております。
8. 将来の校舎の取得や施設設備の整備に向けての計画的な資金の積上げを行います。

厳しい財政事情の中で学園生活が充実したものになるよう、できる限り教育研究予算の増額に努めています。

第1表【消費収支予算書】

2004(平成16)年4月1日から、2005(平成17)年3月31日まで

(単位:百万円)

消費収入の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	10,368	11,136	△ 768
手数料	753	709	44
寄付金	376	380	△ 4
補助金	1,441	1,336	105
資産運用収入	340	338	2
事業収入	185	162	23
雑収入	386	250	136
帰属収入合計	13,849	14,311	△ 462
基本金組入額合計	△ 2,572	△ 3,868	1,296
消費収入の部合計	11,277	10,443	834
消費支出の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
人件費	7,896	7,498	398
(教職員等人件費)	(7,605)	(7,229)	(376)
(退職給与引当金繰入額)	(291)	(269)	(22)
教育研究経費	4,360	4,192	168
(うち減価償却額)	(1,747)	(1,607)	(140)
管理経費	817	787	30
(うち減価償却額)	(175)	(171)	(4)
借入金等利息	74	82	△ 8
資産処分差額	210	34	176
徴収不能引当金繰入額	16	13	3
[予備費]	170	170	0
消費支出の部合計	13,543	12,776	767
当年度消費収支差額	△ 2,266	△ 2,333	67
前年度繰越消費収支差額	89	2,422	△ 2,333
次年度繰越消費収支差額	△ 2,177	89	△ 2,266

第2表【資金収支予算書】

2004(平成16)年4月1日から、2005(平成17)年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	10,368	11,136	△ 768
手数料収入	753	709	44
寄付金収入	376	380	△ 4
補助金収入	1,441	1,336	105
資産運用収入	340	338	2
資産売却収入	599	200	399
事業収入	185	162	23
雑収入	386	250	136
前受金収入	1,991	1,954	37
その他の収入	3,882	5,731	△ 1,849
資金収入調整勘定	△ 2,485	△ 2,605	120
前年度繰越支払資金	6,718	7,287	△ 569
収入の部合計	24,554	26,878	△ 2,324
支出の部			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
人件費支出	8,211	7,598	613
(教職員等人件費支出)	(7,605)	(7,229)	(376)
(退職金支出)	(606)	(369)	(237)
教育研究経費支出	2,613	2,585	28
管理経費支出	642	616	26
借入金等利息支出	74	82	△ 8
借入金等返済支出	172	172	0
施設関係支出	1,649	3,213	△ 1,564
設備関係支出	556	523	33
資産運用支出	4,794	5,154	△ 360
その他の支出	495	407	88
[予備費]	250	250	0
資金支出調整勘定	△ 771	△ 440	△ 331
次年度繰越支払資金	5,869	6,718	△ 849
支出の部合計	24,554	26,878	△ 2,324

父母懇談会開催予定

ご参加お待ちしております

本学では毎年(工学部は隔年開催)保証人の方を対象に「父母懇談会」を開催しています。

この懇談会では、学部・学科の現況説明の後、希望者によるグループ懇談や個別懇談が行われます。懇談会の一環として就職説明会も開催し、最近の就職状況についての説明・質疑応答なども行われる予定です。

各学部の開催日・対象学年は表のとおりとなっています。普段なかなか訪れることのない方々も本学や学生生活を知っていただく機会になると考えております。五月に入りましたら詳しいご案内・出欠票を郵送いたしますので、ぜひご参加ください。

学部	対象	開催日	前回出席者
経済学部	2年次生保証人	6月12日	178名
工学部	2・3年次生保証人	6月19日	335名
文学部	3年次生保証人	6月26日	170名
法学部	2年次生保証人	7月3日	186名

二〇〇三年度 国家試験合格実績

各種国家試験について合格者は次のとおりです。

●司法試験(二名)

- 岡村智子(一九九七年三月法学部卒)
- 古賀大智(二〇〇三年三月法学部卒)
- 弁理士試験(四名)
- 吉村徳人(一九九九年三月法学部卒)
- 山本龍郎(一九九九年三月法学部卒)
- 赤澤克豪(一九八四年三月経済学部卒)
- 司法書士(一名)
- 他一名

海外留学バックアップ

成蹊大学では、国際教育センターで相談に応じしています。留学のための語学力や単位認定など留学についてお聞きになりたい方は国際教育センターまでお問い合わせください。

いづれの場合も国際教育センターで相談に応じしています。留学のための語学力や単位認定など留学についてお聞きになりたい方は国際教育センターまでお問い合わせください。

この他に、現在は受入れのみですが、中国上海の復旦大学、上海交通大学、同済大学と協定を結んでいます。これは三菱グループ十八社と上海の三大学及び成蹊大学との間で締結された「二十一世紀における中国の発展及び日本と中国の友好に寄与する国際感覚豊かな人材を育成するための交流プログラム」実現のために立ち上げられた三菱グループ国際交流奨学金によるもので、

2004年3月卒業生の主な就職企業

経・法・文学部 男子	人数(人)	経・法・文学部 女子	人数(人)	工学部(大学院を含む)	人数(人)
日本興亜損害保険	6	みずほ銀行	20	日産自動車	4
明治安田生命保険	4	ユーエフジェイ銀行	10	横河電機	4
武蔵野銀行	4	三井住友銀行	9	本田技研工業	3
東京都民銀行	3	東京海上火災保険	9	沖電気工業	3
あいおい損害保険	3	日本興亜損害保険	9	キャノン	2
東京三菱銀行	2	損害保険ジャパン	8	富士重工	2
中央三井信託銀行	2	三菱信託銀行	7	三菱自動車工業	2
東京海上火災保険	2	明治安田生命保険	6	タチエス	2
損害保険ジャパン	2	三井住友海上火災保険	6	清水建設	2
城南信用金庫	2	東京三菱銀行	5	トヨタ自動車	1
みずほインベスターズ証券	2	大同生命保険	5	大日本印刷	1
三菱信託銀行	1	太陽生命保険	5	凸版印刷	1
千葉銀行	1	日本生命保険	5	高砂熱学工業	1
三井住友海上火災保険	1	ジェーシービー	4	森永製菓	1
ジェーシービー	1	みずほ信託銀行	3	明治製菓	1
大和ハウス工業	5	住友信託銀行	3	麒麟麦酒	1
積水ハウス	5	りそな銀行	2	資生堂	1
大日本印刷	3	武蔵野銀行	2	小野薬品工業	1
大日精化工業	3	アメリカンファミリー生命保険	2	東芝	1
スタンレー電気	3	東京海上日動あんしん生命保険	2	日本電気	1
凸版印刷	2	みずほ証券	2	三菱電機	1
日本たばこ産業	2	三井住友リース	2	日立製作所	1
小糸製作所	2	横浜銀行	1	日本アイビーエム	1
明治製菓	1	オリックス	1	三菱重工	1
三共	1	大和証券グループ本社	1	牧野フライス製作所	1
日本精工	1	積水ハウス	3	ニコン	1
日立製作所	1	大日本印刷	2	オリンパス	1
シャープ	1	高砂熱学工業	2	NECシステム建設	1
三菱マテリアル	1	三陽商会	2	住友スリーエム	1
セブン-イレブン・ジャパン	4	大和ハウス工業	1	富士ゼロックス	1
伊勢丹	3	凸版印刷	1	日本銀行	1
三越	2	三共	1	キャノン販売	2
ローソン	2	日本アイビーエム	1	大塚商会	1
キャノン販売	2	エイベックス	1	菱洋エレクトロ	1
国分	2	神鋼商事	3	日立情報システムズ	2
三菱商事	1	伊勢丹	2	京セラコミュニケーションズ	2
東京産業	1	和光	2	エヌティティデータカスタマーサービス	2
明治屋	1	住友商事	1	イセタンデーターセンター	2
菱食	1	小田倉百貨店	1	富士通システムソリューションズ	2
イトーヨーカ堂	1	ミキハウス	1	日産テクノ	2
三菱電機ビルテクノサービス	5	トラスコ中山	1	東京電力	1
ジェイティービー	3	ジェイティービー	6	東日本旅客鉄道	1
エヌティティコミュニケーションズ	3	住友不動産販売	3	住商情報システム	1
日本通運航空事業部	2	オリックスオートリース	3	エヌティティドコモ	1
東日本旅客鉄道	2	ぎょうせい	3	TIS	1
電通	2	日本航空システム	2	トランスコスモス	1
全日本空輸	1	近畿日本ツーリスト	2	三井情報開発	1
東京急行電鉄	1	クラブツーリズム	2	アイネス	1
京王プラザホテル	1	郵船航空サービス	1	アルファシステムズ	1
住商情報システム	1	フジテレビジョン	1	ダイヤモンドコンピューターサービス	1

(注) 業種別区分(金融業、製造業、卸小売業、サービス業)ごとの企業別就職人数に従い、就職目標となりうる企業を抜粋しその就職人数を表記した。

大学の近況

表1 成蹊大学留学プログラム (それぞれ選考を行います。長期協定留学、中期協定留学および短期協定留学のケンブリッジ大学)には、TOEFLのスコアなどにより支給される奨学金があります。

留学先	長期協定留学									
	オーストラリア		連合王国	アメリカ		ドイツ	フランス	タイ		
	グリフィス大学	モナシュ大学	マードック大学	エディンバラ大学	アメリカン大学	アクアナス大学	ボン大学	ハイデルベルク大学	リヨン第三大学	チェンマイ大学
派遣人数	最大4名	1名~2名	1名~2名	1名~2名	1名	1名~2名	1名~2名	1名~2名	1名~2名	1名~2名
派遣期間	2月~翌年1月			9月~翌年5月	8月~翌年5月		2月~翌年1月		9月~翌年6月	3月~翌年2月
学費	協定大学における授業料およびその他の納付金は免除される。			協定大学の授業料その他の納付金は全額自己負担。(授業料相当額の奨学金あり)		協定大学における授業料およびその他の納付金は免除される。				
諸費用	成蹊大学の授業料および施設設備費は3分の2が减免。実験実習費は免除。 渡航費、生活費、食費等は全額自己負担とする。									

留学先	中期協定留学	短期協定留学				
	語学研修+インターンシップ	語学研修		語学研修+専門科目	語学研修+専門科目	
	マンチェスター大学(連合王国)	ゴンザガ大学(アメリカ合衆国)	エディンバラ大学(連合王国)	ケンブリッジ大学(連合王国)	北京大學(中華人民共和国)	チェンマイ大学(タイ王国)
派遣人数	最大20名	最大30名	最大35名	最大30名程度	最大30名	最大16名
派遣時期	4月上旬~7月上旬、9月中旬~12月下旬(約14週間)	8月4日(水)~8月28日(土)(25日間)	8月14日(土)~9月5日(日)(23日間)	2005年3月中旬~4月上旬(予定)	8月3日(火)~8月30日(月)(28日間)	8月16日(月)~9月10日(金)(26日間)
費用概算	約70万円(ホームステイ費用を含む) 渡航費、生活費等は全額自己負担とする。派遣期間中の成蹊大学の授業料および施設設備費、実験実習費は全額免除。	445,000円	450,000円	650,000円程度	227,000円	259,000円

表2 SAF協定大学

1. ハトラー大学
2. コロンビア大学
3. コンザガ大学
4. インディアナ大学
5. マリアミ大学
6. ミッドルバリーカレッジ
7. モンタナ州立大学
8. マウントホリオークカレッジ
9. パシフィックルーテルン大学
10. ペッパーダイン大学
11. スミスカレッジ
12. セント・マイケルズカレッジ
13. トリニティー大学
14. アーカンソー大学
15. コロラド大学
16. デンバー大学
17. アイオワ大学
18. ミネソタ大学
19. モンタナ大学
20. レッドラズ大学
21. リッチモンド大学
22. セント・トーマス大学
23. サウス大学
24. パーモント大学
25. アイオワ大学
26. セント・メリーズカレッジオブカルフォルニア

今年度三人の留学生在が経営学研究科で学んでいます。
①協定留学とは
表1にあるとおり、成蹊大学と協定を結んだ大学に留学をする制度です。表1の他に二〇〇四年度からはStudy Abroad Foundation(SAF)との協定締結により表2

の大学へも協定留學生として留学することができるようになりました。
②認定留学とは
学生自身が学びたい海外の大学を選び、手続する留学です。留学先の授業料その他の納付金は全額自己負担となります。

学術部門	福永真己(経済研・経済・前期2年)	第18回世界宇宙飛行士会議(ASE18)(第18回世界宇宙飛行士会議実行委員会主催 委員長:毛利 衛氏)にて発表を行い、グループディスカッションにおいては学生のとりまとめ役を担う
芸術部門	今井聡子(法・政治4年)	第27回ビティナ・ピアノコンペティション(社)全日本ピアノ指導者協会主催)全国本選会アマユース部門Bカテゴリー 優秀賞受賞
スポーツ部門	体育会陸上競技部所属 早川英里(経・経営2004年3月卒)	①第30回JALホノルルマラソン 女子総合4位、日本人女子1位 ②札幌国際ハーフマラソン 8位
文化活動部門	文化会英語会所属 三村真史(文・英米4年) 伊藤淳一朗(法・法律4年)	2003年大学対抗英語ディベート大会(日本語交流連盟)参加22大学30チーム中 第3位受賞
社会活動部門	麗頭千子(文・英米2004年3月卒)	2002INAS-FID知的障害者サッカー世界選手権大会に、イングランドチーム付きリエソンとして参加 英国フットボール協会より表彰を受ける
特別奨励賞	体育会馬術部 松島奈津子(法・政治4年)	馬を通じて知的障害児と交流 国際ボランティア作文コンクール(郵政事業庁主催)に応募 23786名応募の中、郵政局長賞受賞
	体育会ヨット部所属 諸田徳太郎(経・経営2004年3月卒)	第32回全日本470級ヨット選手権大会 参加76艇中40位
	文化会競技ダンス部所属 松尾知樹(法・法律4年)	東部日本学生競技ダンス選手権大会II部戦 ワルツの部 第2位入賞 スローフォックスロットの部 準決勝進出8位
	体育会バレーボール部 高橋洋之(法・政治2004年3月卒)	①男子 春季リーグ戦9部2位 入替戦勝利 8部昇格 ②女子 春季リーグ戦7部2位 入替戦勝利 6部昇格 秋季リーグ戦6部2位 入替戦勝利 5部昇格 サウンド・アンビション合唱団副代表、渋谷谷合唱連盟運営委員等の役職につき、多くのコンサートの運営や出演をしたり、個人的に地域ボランティア活動に参加するなど、音楽を通じ、地域において文化交流を行う

本学では、学術、芸術、スポーツ、文化活動、社会活動の各部門で他の学生の範となる活動を行い、優秀な成果をあげた個人および団体に日頃の努力を称え、「成蹊大学賞」を授与して

います。二〇〇三年度の受賞者・団体は次のとおりです。
なお、部門賞には及びませんが、評価された個人および団体に対し、特別奨励賞を授与しました。(受賞者の学年は新年度の学年です。)

2004年度学年暦

前期	
入学式	4月 5日(月)
オリエンテーション	3月31日(水)~4月 9日(金)
健康診断	4月 2日(金)~ 8日(木)
授業開始	4月12日(月)
履修登録期間	4月15日(木)~ 16日(金)
履修確認期間	4月22日(木)~ 24日(土)
学内陸上競技大会	6月 2日(水)
学内競漕大会(レガッタ)	6月29日(火)
授業終了	7月 9日(金)
補講期間	7月12日(月)~ 16日(金)
試験期間	7月20日(火)~8月 2日(月)
レポート試験提出期間	7月26日(月)~ 27日(火)
夏期休業期間	8月 3日(火)~9月23日(木)
成績通知表配布	9月24日(金)・ 27日(月)
学位授与式(9月卒業)	9月25日(土)
後期	
授業開始	9月24日(金)
四大学運動競技大会(武蔵大学にて実施)	10月22日(金)~ 24日(日)
榊祭期間	11月18日(木)~ 22日(月)
授業終了	12月22日(水)
冬期休業期間	12月23日(木)~1月10日(月)
補講期間	1月11日(火)~ 17日(月)
試験期間	1月18日(火)~ 31日(月)
レポート試験提出期間	1月24日(月)~ 25日(火)
春期休業期間	2月 1日(火)~3月30日(水)
学位授与式	3月19日(土)

法科大学院学年暦は、上記とは別のものになります。

テーマ

グローバル化に対応する社会・制度

第1回 6月19日(土)
「国際化からグローバル化へ」
遠藤誠治 法学部教授

第2回 6月26日(土)
「イスラム社会と国際化」
堀内正樹 文学部教授

第3回 7月3日(土)
「モノづくりと日本」
谷 正紀 中学・高等学校校長

第4回 7月10日(土)
「税制における国際間の不公平性」
成道秀雄 経済学部教授

会場 大学8号館101室
(2回目は大学3号館303室)

時間 13時30分~15時30分

受講方法 申込み不要。
当日直接会場へお越しください。

問い合わせ先 企画運営部企画運営課
(0422-37-3531)

URL
<http://www.seikei.ac.jp/university/index.html>

二〇〇四年度
成蹊大学春季公開講座
成蹊大学では年一回公開講座を行っています。今春は「グローバル化に対応する社会・制度」をテーマに四人の方にお話しただきます。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお出かけください。

成蹊中学弁論大会

昨 年一年次には学年行事として合唱祭で各クラスが一丸となつてハーモニーを奏でた二年生は、二月五日大学五号館一〇二号室で弁論大会を開催いたしました。

真摯に聞く姿勢を身につけ、広く社会に目を向けて、真剣に自分を見つめてほしいという願いから企画されました。中学二年の年頃の生徒が、何をどう考え、どんな事に興味を持っていくか、生徒全員に書いてもらった意見文の中から、まずはクラス予選の候補者数名を選び、各HRの弁論予選会の厳正な審査を経て、各クラス代表一名が選ばれ発表しました。

信ずる正義を実行に移す難しさ、悩むことの意義、大人に期待する勇気等々、さすがクラス



の代表、堂々と声を発し、聴衆に目を配り、落ち着いて間を確保し、自信に溢れて語りかける話し方には、未熟とは言え説得力がありました。

マラソン大会・耐寒健歩会

今 年の高校のマラソン大会と中学の耐寒健歩会は、いずれも二月十九日に予定されていましたが、残念ながら高校マラソン大会だけが実行されました。耐寒健歩会はコースに工事が入り、今年度は中止のやむ無きに至りました。

当日のマラソン大会は暑過ぎると感じる程暖かな好天の中、立川昭和記念公園で行われました。

三学期の体育の授業は持久走を中心にカリキュラムが組み立てられており、このマラソン大会がその総決算にあたります。今年

高校でも学級閉鎖を余儀なくされる程インフルエンザが流行り、参加者の数が心配されましたが、暖かい天候も幸いして、欠席者も見学者も心配した程ではなく高校一、二年生のほとんどの生徒が規定時間内に男子八・五キロ、女子四・五キロのコースを完走することができました。

男子二十八分四十二秒、女子十七分三十九秒という優勝タイムは近年にない好記録でした。耐寒健歩会も行われませんでした。毎年冬のこの時期に行われる鍛錬の要素を含む中学・高校の二つの行事は、旧制時代の伝統を今に伝えるものとして今後とも大切にしていきたいと考えています。

入学試験

一 〇〇四年度入学生のための入学試験は、一月九日の中学校国際学級入試を皮切りに、二月一日に中学校、十日に高等学校の入学試験、更に十四日には高校帰国子女入試、二月二十七日に中学国際入試第二回、三月十三日に高校二年編入学試験が行われました。一連の入試の状況は十八ページにまとめてありますのでご覧下さい。

中学校、高等学校の入学試験では、いずれも受験者数が昨年、一昨年に比べると増加しましたが、昨今の公立中高の改革や、現在の経済状況を鑑みると特に私立中学

校、高等学校の入試を巡る情勢は一段と厳しさを増しています。受験者数を確保し、入学者の水準を維持していくために、成蹊中学・高等学校の魅力を広く知らせるなど一層の努力を続けていく必要があると考えています。

文化部・運動部の活躍

文 化部の発表の機会として中学・高等学校では、文化祭の他に六月展、一月展と呼ばれて親しまれている小規模発表会があります。今年の一月展は一月十九日から二十四日までの一週間行われました。この期間中、中学校の各部は中学HR棟一階ホールおよび中央館一階廊下に、また高等学校の各部は高校食堂内にそれぞれパネルを設置して日頃の成果を発表しました。また、演劇や音楽等の各団体の大教室での公演は、インフルエンザのため学級閉鎖が続出したことを考慮し、二月七日の午後に変更し、多くの観客を集めて開催されました。展示、公演とも各部の日頃の活動をよく反映していました。この他文化部の活動としては、三月二十日中高ウインド・オーケストラの第十二回定期演奏会が行われました。

卒業式

三 月六日に高等学校、三月十七日に中学校の卒業式が行われ、高等学校三百十七名、中学校二百四十八名の卒業生に卒業証

〈高校剣道部〉	都新人大会	男子団体	2回戦
		女子団体	1回戦
〈高校柔道部〉	都新人大会兼全国選手権予選会	男子団体	1回戦
〈中学サッカー部〉	都新人大会		1回戦
〈中学女子硬式テニス部〉	都大会	シングルス	1回戦
		ダブルス	1回戦
		団体	ベスト16位
都新人大会		シングルス2名	1回戦
		1名	2回戦
		1名	3回戦
		ダブルス1組	1回戦
		1組	3回戦
		団体	ベスト16位

【文化部】

- 〈中高演劇部〉
 - 都私立中高演劇発表会
 - (中高合同私学演劇大会)
 - 特別賞演技賞受賞
- 〈高校演劇部〉
 - 「はいすくうるドラマすべしやる」出演
 - (関東地区対象)

【運動部】

- 〈高校スキー部〉
 - 関東大会兼全国大会都予選会
 - 3年 沢田陽由馬
 - 回転競技 2位 大回転競技 2位
 - 関東大会 回転競技 2位
 - 全国大会 出場
 - 都高校スキー大会 回転競技 1位
- 〈高校ラグビー部〉
 - 都新人大会
 - ベスト8位

書を授与しました。中学校の卒業生のうち二百三十五名が成蹊高等学校に推薦入学しました。また、高等学校から成蹊大学への推薦入学者は、昨年を上回る八十八名で、卒業生全体の約二十七・八％に当たります。これは、従来以上に高大連携して成蹊大学の魅力や特徴について理解を深めるべく説明会や情報提供をした成果の表れではないか思います。更に対応に工夫を重ね継続することを考えています。また、外部大学を受験した卒業生の結果については現段階でまだ結果がまとまりませんので、次の機会にご報告したいと思います。

寒さの中で競う

十年は優に続いているマラソン大会、ドッジボール大会、どちらも本校の冬の風物詩です。寒さに負けない強い心と体を鍛えるために代々大切にされてきた行事です。その様子の一面を子どもたちの文章から眺めてみましょう。

一月二十七日 マラソン大会
六年 佐々木 桃子
「寒い」というより「寒すぎ」だ。最高温度七度。そのような寒さだというのに、半袖で走るときまわっている人など多くはないだろうという状態なのに…。私は半袖だった。体育の時間では、二時間しかマラソンの練習をしなかった。が、その時間ですればうまく走れるかを研究した。
コース二周を二回に分けて走った。そのとき、二周を続けて走る時の走り方が頭に浮かんだ。
・スタートを飛ばす、スタートからゴールまでリズムよく走る。
・スタートとゴールにスタートをかける。
・誰かをマークする。
・めちゃくちゃにいく。(スパートヤリズムを自由に)
・ということだ。

私は、この練習で一番目に浮かび上がった「リズムよく走る」に決めた。足のリズムをよくし、大きく吸って大きく吐く。息のリズムを合わせ歩いていくということだ。それを利用して今日のマラソン大会を走った。結果二十九位。遅いが

自分では小学校最高記録だった。：

ひとりひとりが目標をもって、仲間と競い合う中で自分を磨いていく…。幸い、ニキ口のコースも学園の敷地内だけで作ることのできる好条件に恵まれています。今年も保護者の声援の前で多くのドラマが繰り広げられました。
三月の声が聞かれると、ドッジボール大会が本番を迎えます。子どもたち、先生方は勿論、保護者の方々も、心も体も熱く熱く燃え上がります。六年生のリーダーの一人、野川君は日記の中に自分の思いをこうぶつけています。

ドッジボール ブーム 再来
六年 野川 崇明
(二月十九日)
ドッジボール大会、三月三日…。これを聞いたらみんなドッジボールをやり出した。ブーム再来だ。男子は今年こそ優勝を目指している。はずだ…。女子も結構やる気のある人がいる。今年は優勝がねらえるかもしれない。いや、ねらうっ！

(二月一日)
ドッジボールのしすぎのせいか、右腕が常に痛い。テニスもやりにくい。いつもより多少弱いボールになったが、くいついていくことはできる。湿布を貼ってもなかなか痛みがおさまらない。困ったなあ。
(二月五日)
この頃、ドッジボールをするメンバーが増えてきた。女子も男子のゲームに混ぜるのでどんどん上達していつている。しかし時間に限りというものが存在する。な

のでもっと練習時間をふやしてほしい。優勝するために。

こんな「春」が…

子どもたちのまわりに春は早かったです。
二年生の子は、「こみち」の学習で、こんな春を見つけた絵手紙を描いています。ひとりひとりの表現に自分の見つめた春の姿が上手に描かれています。



増岡朋弥



山本 葵



岩崎有真



赤松英里香

子どもたちの日記の中にも、身近な春を「種」としたものが綴られています。

春一番

二年 小原澤 郁未
：東工大のグラウンドの横を通る時、グラウンドの土が空いちめんになって、前がぜんぜん見えなくなりました。
そのすなが目に入って、いたかったです。弟のたくみも、小さな手で目をこしこしとこすっていました。とってもかわいそうだったけれど、そのすがたはかわいかったです。

ママが、「コートをぬいでたくみの頭にかぶせました。ママは、「これが春一番よ。」
と言いました。その風は、いきおいが強くて、生あたたかかったです。
今年の春一番は、いつもの年より早く来たらしいので、早く春が来そうですね。

二月二十三日 イボガエル
一年 みやの あや
(なんかさわがしいなあ。)
あさのじかん、あまりにそとがさわがしいので、わたしはおもいきつてそとに出てみることにしました。人ごみの中をのぞくと、そこには、イボガエルがいきました。とうみんからさめたばかりみたいで、まだノロノ口あるきでした。
しばらくイボガエルのあとをついていきました。すると、イボガエルが、にしくみのきょう

しつのほうへいきました。ついには、にしくみのきょうしつの中に入ってしまった。…

四季折々の移り変わりを子どもたちは体全体で感じながら一日と成長しています。
報告の最後に、初めて「枯林忌」を経験した一年生の日記を紹介しておきます。

二月二十日 小林 ぎ

一年 とのきまこと
きょう、学校で、みんなで、こ林忌をしました。ほくは、かねの音で、みんなといっしょにぎょうねんをしました。ぎょうねんの中に、中村は二先生のしん力かきこえました。ほくは、
「中村は二先生のこえってこんなこえなんだあ。」
とおもいました。中村は二先生のおっしゃっていることは、よくききとれませんでした。ほくは、中村は二先生が、ちかくにいるような気がしました。

そのあと三じかん目に、正さんのちかくのひろほの中村は二先生のきょうぞうまでいきました。ほくたちは、中村は二先生に、かんしゃとおいのりをしました。
いえて青白まんじゅうをたべながら、こ林忌のことをおかせさんにはなしました。

子どもたちの心に「やさしい心」は着実に育ってきています。

タバコのはなし

「健康増進法」という言葉を見聞きしたことはありませんか？これは、二〇〇三年五月に学校・劇場・百貨店など多くの人が利用する施設での受動喫煙防止を努力義務化した法律です。法律施行から約一年、大手私鉄で全面禁煙策が講じられるなど対策は進んできていますが、まだ十分とはいえません。今回はタバコについてお話しし、各ご家庭で受動喫煙防止について考える一助としてもらえたらと思います。

タバコが及ぼす健康への影響

タバコが原因となって起こる病気の死亡者数は、世界で年間三〇〇万人、日本では年間十二万人といわれます。タバコと深い関わりのある主な病気には、身体各部位に発生するがん、循環器系・中枢神経系疾患、胃・十二指腸潰瘍などの消化器系疾患などがあります。喫煙者のがん死亡率を非喫煙者と比べると、男性で一・六七倍、女性でも一・三倍とハイリスクです。また、意外と知られていないのですがタバコによるダイオキシンの発生量は排気ガスの約二〇〇倍、ゴミ焼却煙の三倍以上といわれます。タバコの神経・血管・血流へのダメージによるED（勃起障害）は一・七倍、皮膚の慢性的な酸欠状態による肌のシワが四・

七倍など、タバコは健康に対しさまざまな悪影響を及ぼします。

受動喫煙

先程お話しした健康への影響は、タバコの中に含まれる有害物質が主な原因です。タバコの煙には、口から肺へ吸入される「主流煙」と、点火部から立ち上る「副流煙」の二種類があります。各種有害物質は、主流煙より副流煙の方が多いためです。「主流煙」を「とす」と「副流煙」の有害物質の割合は、ニコチン二・八、タール三・四、一酸化炭素四・七で、喫煙者と一緒にいるだけで、周りにいる非喫煙者は少量のタバコを自分で吸ったことになるのです。これを「受動喫煙」といいます。受動喫煙の長期的影響として、肺がんや狭心症の危険性が高まることや、呼吸器機能が低下することが知られています。また、家庭では喫煙者の夫を持つ非喫煙者の妻が肺がんになる危険性は、夫が非喫煙者の場合に比べて一・五倍以上高くなるということが報告されています。

なぜタバコを止められないの？

こんなに色々な害が立証されているタバコ。止めたいけれどもなかなか止められないという人も多いのではないのでしょうか？これは、決して意志薄弱だからではありません。

せん。ニコチンには依存性があることがわかっています。アルコールや覚醒剤などの他の薬物に比べて、急性の薬理効果や禁断症状が目立たないので、薬物依存として捉えにくいかもしれません。一般に薬物乱用は仲間のまねをして始まり、止める時も仲間がいる方が成功しやすいのですが、タバコも同様です。一人で頑張らず禁煙イベントに参加したり、禁煙補助剤（禁煙ガム・ニコチンパッチ）を使用するなどをお勧めします。

禁煙の効果

禁煙の効果は二十分後には血圧が正常値になるなどすぐに現れます。一年後には喫煙によって高まった心臓病のリスクが半減します。さらにタバコを吸わなくなると節約できたお金は、一ヶ月で約一万五千元、一年で約十八万円にもなります。喫煙、受動喫煙の害から健康を取り戻し、節約したお金を活用してご家族で余暇を楽しんではいかがでしょう？

おわりに

とある大学保健管理センターの報告によると、毎日喫煙する学生の割合が男女各々一回生七・九％、一・六％、二回生十八・六％、三・五％、三回生二九・二％、六・六％、四回生三二・三％、八・二％、五回生以上四

所長の独り言

櫻井勝

犬 が死んだ。雌の白いトイプードルである。十六年間の生涯をある家族とともに生きた。その家族には長い闘病生活を送る少年がいた。犬はその少年が病に打ち勝って帰宅した日、両親が彼の為に買い求めたものである。雪のように白く元気で賢い仔犬であった。以来、その犬は家族の一員として全てを見てきた。少年の両親の波乱万丈の人生も、少年の青春時代も、少年の姉達の結婚も……。やがて少年は青年となり美しい娘と結ばれた。犬の小さな身体には十六年の歳月は重く、晩年足腰が弱り耳も眼も利かなくなっていた。安住の地は青年の母の膝の上。大人しい犬は何時もそこで家族の中にあった。ある日、青年の父のガンが見つかった。犬はただ主人の帰りを待った。早期ガン、手術は成功した。犬はしっぽを振って主人を迎えた。青年にも希望の赤ん坊が産まれた。一家は喜びに湧いた。その時犬は家族の中で静かに佇んでいた。皆の喜びを確認するかのようには首をかしげると、次の瞬間突然崩れ落ちた。青年の母がその身を抱え上げ、引き寄せた。鼓動が消えていた。犬は死んでしまった。家族の皆が涙に暮れた。

青年の母は足の弱ったその犬が階段途中の踊り場で皆の帰宅を待つ、その姿を思い出しては涙している。

一匹の犬の十六年の生涯はその家族に安らぎの心や深い愛情を残してくれた。

彼女の冥福を祈る。

五・四％、十七・五％と学年と共に喫煙率の増加がみられています。これは、大学で喫煙を学んでいるともとれるデータです。また、全喫煙学生の五十％は大学入学前から習慣喫煙者であったというデータもあります。未成年者は新陳代謝が活発で、タバコの有害物質が取り込まれやすくなっていますし、喫煙開始年齢が低いほど死亡率は高くなります。ですから若い時期の禁煙は、ますます重要になってきます。

保健師 石川 孝子

二〇〇四年度入学試験状況

(二〇〇四年三月二十四日現在)

【大学】

	学部・学科	入学定員	一般入試					AO入試・推薦入学・その他			入学手続完了者
			方式	志願者	受験者	合格者	競争率	志願者	受験者	合格者	
経済学部	経済経営学科	435	A	5,147	4,692	545	8.6	536	525	305	471
			C*	4,208	4,201	267	15.7				
	計	435		9,355	8,893	812	11.0	536	525	305	471
工学部	機械工学科	75	A	567	493	81	6.1	57	56	43	84
			C	521	521	82	6.4				
	電気電子工学科	75	A	375	307	60	5.1	32	32	25	62
			C	521	521	135	3.9				
	応用化学科	75	A	564	497	97	5.1	67	66	46	87
			C	600	600	123	4.9				
	経営・情報工学科	75	A	569	489	70	7.0	73	72	55	82
C			650	650	84	7.7					
物理情報工学科	60	A	202	165	49	3.4	27	27	26	58	
		C	247	247	64	3.9					
	計	360		4,816	4,490	845	5.3	256	253	195	373
文学部	英米文学科	120	A	656	606	168	3.6	137	136	86	133
			C	640	639	83	7.7				
	日本文学科	83	A	696	626	102	6.1	77	76	49	96
			C	570	570	98	5.8				
	国際文化学科	100	A	1,125	1,022	154	6.6	135	135	61	110
C			903	902	94	9.6					
現代社会学科	100	A	972	885	156	5.7	111	109	63	117	
	計	403		6,313	6,001	958	6.3	460	456	259	456
法学部	法律学科	250	A	2,209	1,993	203	9.8	349	343	202	323
			C	2,233	2,231	303	7.4				
	政治学科	140	A	964	855	136	6.3	152	150	80	171
C			1,002	1,001	196	5.1					
	計	390		6,408	6,080	838	7.3	501	493	282	494
大学計		1,588		26,892	25,464	3,453	7.4	1,753	1,727	1,041	1,794

※AO入試・推薦入学・その他は「AOマルデス入試(一般・帰国生・社会人・外国人)」「指定校推薦」「成蹊高校からの推薦」の合計です。

* 経済学部C方式は「3科目型」と「5科目型」の合計です。

【大学院】

	専攻名	博士前期課程				博士後期課程			
		志願者	受験者	合格者	入学手続完了者	志願者	受験者	合格者	入学手続完了者
工学研究科	電気電子工学専攻	30	30	22	22	0	0	0	1
	応用化学専攻	21	21	20	19	1	1	1	1
	機械工学専攻	12	12	11	9	0	0	0	0
	情報処理専攻	13	13	9	9	0	0	0	1
	物理情報工学専攻	13	13	13	12	0	0	0	0
	計	89	89	75	71	1	1	1	3
経済学研究科	経済学専攻	9	8	5	3	1	1	1	1
法学政治学研究科	法律学専攻	3	3	2	2	2	2	0	0
	政治学専攻	13	9	5	3	3	3	1	1
	計	16	12	7	5	5	5	1	1
文学研究科	英米文学専攻	5	3	3	3	2	1	1	1
	日本文学専攻	4	2	2	2	6	4	4	3
	社会文化論専攻	10	10	8	8	2	1	0	0
	計	19	15	13	13	10	6	5	4
経営学研究科	経営学専攻	29	27	14	14	1	1	1	1
法務研究科	法務専攻	1,531	1,231	114	71				
合計		1,693	1,382	228	177	18	14	9	10

【高等学校】

学年	募集人員	志願者	合格者	入学手続完了者	成蹊中学校からの推薦入学手続完了者
第1学年	約80	328	179	91	235
海外帰国子女	若干名	50	15	12	
第2学年編入	若干名	2	1	1	

【中学校】

学年	募集人員	志願者	合格者	入学手続完了者	成蹊小学校からの推薦入学手続完了者
第1学年	男子70 女子40	275 157	115 50	85 36	70 52
国際学級	第1学年	約10	55	20	13
	第2学年	若干名	1	0	0
	第3学年	若干名	3	2	1

【小学校】

学年	募集人員	志願者	合格者	入学手続完了者
第1学年	114	870	114	114
国際学級 第5学年	若干名	6	6	6



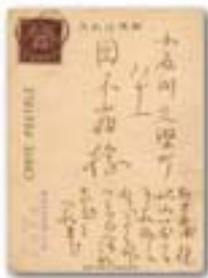
成蹊小学校		成蹊高等学校・中学校		成蹊大学																																									
校長	岡崎 忠彦	校長	谷 正紀	学長	栗田 恵輔	経済学部長	高木 新太郎	大学院経済学研究科長	相原 修	大学院経営学研究科長	上原 信吾	工学部長	大学院工学研究科長	文学部長	大学院文学研究科長	法学部長	大学院法学政治学研究科長	大学院法務研究科長	企画運営部長	学務部長	伊藤 暉夫	就職部長	秋庭 正典	学生相談室長	牟田 悦子	学生部長	渡辺 一衛	図書館長	鈴木 日出男	アジア太平洋研究センター所長	鈴木 健二	専務理事	加藤 節	総務部長	池田 秀治	財務部長	野田 吉政	保健管理センター所長	櫻井 勝	国際教育センター所長	武藤 恭彦	学園情報センター長	涌井 秀治	理事長	岸 暁
教頭	高柴 光男	教頭	和田 一誠	副校長	吉崎 純二	教頭	吉田 寛治	教頭	和田 一誠																																				

●学園組織一覧

法人	総務部	総務課	0422-37-3503	理事会に関すること
		人事課	0422-37-3505	教職員の人事に関すること
		広報課	0422-37-3517	学園の広報に関すること
	財務部	経理課	0422-37-3508	授業料に関すること
		管財課	0422-37-3511	学園寮に関すること
		募金課	0422-37-3941	募金活動に関すること
		保健管理センター	保健管理センター事務室	0422-37-3518
	国際教育センター	国際課	0422-37-3536	留学、国際理解教育に関すること
	学園情報センター	情報システム課	0422-37-3611	学園のネットワークに関すること
	大学	企画運営部	企画運営課	0422-37-3531
研究助成課			0422-37-3705	研究助成に関すること
入試課			0422-37-3533	大学入試に関すること
学務部		授業課	0422-37-3703	授業全般、定期試験、聴講生に関すること
		履修課	0422-37-3553	履修に関すること、卒業証明書発行
就職部		就職進路課	0422-37-3537	就職活動に関すること
学生相談室			0422-37-3807	充実した学生生活をサポート
学生部		学生生活課	0422-37-3539	学生の住所、保証人の変更、奨学金、クラブ活動に関すること
		大学保健室	0422-37-3518	大学生の健康管理に関すること
図書館		図書館事務室	0422-37-3544	図書館の運用・管理
アジア太平洋研究センター		0422-37-3549	アジア太平洋地域に関する共同研究の推進	
中学・高等学校	中学・高等学校事務室	0422-37-3849	中学・高等学校に関すること	
小学校	小学校事務室	0422-37-3838	小学校に関すること	

おもな学校行事予定(4月～6月)

	大学	高等学校	中学校	小学校
4月	5(月) 入学式 3/31(水)～9(金) オリエンテーション 2(金)～8(木) 健康診断 6(火) 授業開始(法科大学院) 12(月) 授業開始(学部・その他研究科)	7(水) 入学式 8(木) 始業式	7(水) 入学式 8(木) 始業式	6(火) 始業式・入学式 28(水) 遠足
5月		7(金) 体育大会 24(月)～6/12(土) 教育実習 26(水)～29(土) 中間テスト 31(月) 遠足	7(金) 遠足 24(月)～6/12(土) 教育実習 24(月)～26(水) 3年中間テスト 26(水)～28(金) 1・2年中間テスト 27(木)～31(月) 3年修学旅行 29(土) 1・2年球技大会 31(月) 1・2年見学会	22(土) 運動会 31(月)～6/3(木) 2年夏の学校(箱根)
6月	2(水) 学内陸上競技大会 29(火) 学内競漕大会(レガッタ)	7(月) 文化部発表会	7(月) 文化部発表会	19(土) 全校授業参観 25(金) 観劇会(市民文化会館)



岡不崩宛
中村春二書簡 (1913年)



「三餘戲筆」

中村春二画 和装

成蹊学園創設者中村春二先生は小学校時代より絵画を好まれ、一時は将来画家になろうと思われたほどでした。この史料は東京高等師範学校附属尋常中学科在学中(一八九一～一八九六年)に、狩野芳崖門の岡不崩氏に日本画を学んだ当時の画帖です。春二先生が二十歳の時、父の国文学者秋香先生が拾綴したもので、題箋の「三餘戲筆」と巻末の「明治卅年九月七日綴」は秋香先生の筆によります。

「三餘」とは冬は歳の余、夜は日の余、陰雨は晴れの余で、冬と夜と雨。本業に励むいとまの時の意味です。

外題に「二」とあり、なおその続きもあったと思われます。日本画薄様料紙に花鳥画、山水画、古今の人物画などの彩色画、全七十二枚を描き、毎葉美濃紙をあてがい、一冊に綴っております。

この和装本は「中村春二・秋香文庫」の貴重史料として成蹊学園史料館で大切に保存しています。また、春二先生自筆の岡不崩氏宛書簡、葉書もこのたび入手し、今後「成蹊学園史料館年報」で紹介していく予定です。



成蹊学園広報

2004年4月1日 発行 学校法人成蹊学園 総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 (0422)37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> E-mail koho@jim.seikei.ac.jp